

日本高等教育学会第 22 回大会
大会プログラム

2019 年 6 月 8 日(土)～9 日(日)

金沢大学



ごあいさつ

日本高等教育学会会員の皆さん、ようこそ金沢へ。大会実行委員会一同、皆さんのご参加を心より歓迎申し上げます。

金沢の位置する石川県には大学（放送大学石川学習センターを含む）、短期大学、高等専門学校をあわせて20の高等教育機関があり、人口当たりの高等教育機関数は全国第2位、学生数は全国第3位です。金沢は、加賀百万石の時代から「天下の書府」と称され、旧制第四高等学校の伝統を踏まえ、現在でも時折「学都」という表現が使われる地でもあります。2015年3月には北陸新幹線が金沢まで開通し、東京から約2時間半で来られるようになり、従来にも増して多くの観光客が訪れています。その「学都」金沢を中心に活動する大学コンソーシアム石川(UCD)は、石川県内の高等教育機関全てが加盟しています。

高等教育の現場では、授業レベル／カリキュラムレベル／教養教育／専門教育など複層的な教育自体に加えて、評価・質保証、学習成果の可視化、入試改革、高大接続、学生支援・学習支援、SD、国際通用性・国際化、ガバナンス・マネジメント、資格などなど、時代と共に課題は増え続けてきています。これらの課題や社会からの要望に対応し、学生が安心して勉強し、しっかりと能力を身につけられる、より良い高等教育のあり方を大会で検討・議論出来ることを目指したいと思います。

今回の大会では、上記の高等教育事情を踏まえた課題研究、自由研究発表において活発な意見交換がなされることを期待しています。公開シンポジウムでは、「地方創生」をテーマとし、政策誘導の効果、高等教育機関の自助努力の効果及び限界などについて議論したいと考えています。

運営側に不慣れな点が多いこと、大都市圏ほど各種導線が整備されていないことなどあり、至らぬ点が多々あるかと思いますが、温かく見守っていただけると助かります。

大会の前後には、是非、新たに矢倉などが復元されかつての姿を取り戻しつつある金沢城、円形の建物から「まるびい」の愛称のある金沢21世紀美術館など、加賀百万石の城下町であり現代の教育文化都市でもある金沢市の観光もお楽しみください。

日本高等教育学会 第22回大会実行委員会
委員長 堀井 祐介

大会日程

6月7日(金)

16:00 ~ 18:00 理事会 (金沢商工会議所 研修室2)

6月8日(土) 金沢商工会議所

8:15 ~ 受付 (エントランスロビー)

9:15 ~ 11:15 自由研究発表 I

11:15 ~ 12:15 課題研究 I 打ち合わせ (研修室1A)

11:15 ~ 12:15 課題研究 II 打ち合わせ (研修室1B)

11:15 ~ 12:15 編集委員会打ち合わせ (研修室1C)

11:15 ~ 12:15 留学生とのランチミーティング
Lunch Meeting with International Students (研修室2)

12:15 ~ 14:15 自由研究発表 II

14:30 ~ 17:00 課題研究

課題研究 I

「多様な研究アプローチからみた高等教育研究 2
—学習成果研究を共通のトピックとして—」

(大会議室)

課題研究 II

「高等教育と地域社会 2

—新たなモード展開に向かう現場から—」

(ホール)

18:00 ~ 20:00 懇親会 (しいのき迎賓館イベント・ホール&ガーデンルーム)

6月9日(日) 金沢歌劇座

9:15 ~ 受付 (2Fロビー)

10:00 ~ 12:00 自由研究発表 III

12:00 ~ 12:50 総会打ち合わせ (第5会議室)

12:00 ~ 12:50 公開シンポジウム打ち合わせ (第6会議室)

13:00 ~ 13:30 総会 (大集会室)

13:45 ~ 16:45 公開シンポジウム「地方創生と高等教育」 (大集会室)

大会参加のご案内

- ウェブサイト：** 最新情報は <http://herd.w3.kanazawa-u.ac.jp/jaher22/> で提供しております。
- 参加費：** 大会参加費 6,000 円（事前お支払いの方は 5,000 円）
懇親会費 6,000 円（事前申し込みのみ）
*会員でない方も臨時会員として、上記と同じ金額で参加できます。
**シンポジウムは無料で一般に公開します。
- 学会年会費：** 大会会場では、学会年会費の納入はできませんのでご了承ください。
- 入場：** 会場及び懇親会会場への入場は、必ずネームプレートをつけて下さい。原則としてネームプレートのない方は入場できません。なお、ネームプレートはお帰りの際に受付にお返しください。
- 呼び出し：** 会場での呼び出しは行いませんのでご了承ください。
- 緊急連絡先：** 発表者が欠席する場合など、緊急の場合は、わかり次第、できるだけ早く大会実行委員会にE-mailにてお知らせください
(大会実行委員会 E-mail: jaher2019knzw@ml.kanazawa-u.ac.jp)
- 資料のコピー：** 大会実行委員会によるコピーサービスは行いません。自由研究発表用の配付資料等は各自が必要な部数をご用意ください。
- 会員控室：** 両日とも、設置しておりません。
- 書籍等の展示・販売：** 6月8日は金沢商工会議所研修室3、9日は金沢歌劇座第1会議室で行います。
- クローク：** 両日とも、設置しておりません。ご自身で管理いただくようお願いいたします。
- 昼食：** 会場には食堂等はありません。近隣の飲食店をご利用いただくか、事前にお弁当の予約をお願いします。
- 懇親会：** 8日（土）18:00～20:00に、しいのき迎賓館にて行います。

発表者へのお願い

●発表および質疑応答時間

発表人数	発表時間	質疑応答時間
1人	15分	5分
2人	30分	10分
3人以上	40分	10分

*全ての発表について、以下の要領で時間の目安をお知らせします。

【1鈴】発表終了5分前

【2鈴】発表終了時

【3鈴】質疑応答終了時

●発表用機械器具

大会会場にはプロジェクタ及び Windows PC が備え付けてありますので、発表される方はこれをご利用下さい。Microsoft Office(.ppt .pptx .doc .docx)及び PDF (.pdf)であれば、基本的に対応可能ですので、発表ファイルを入れた USB メモリ（検疫済みのもの）等をご用意ください。やむを得ずご自身の PC を利用される場合には、発表部会開始前に動作確認をしてください。持込み PC と会場備付けプロジェクタとの接続には、アナログ RGB(D-Sub15 ピン)及び HDMI(TypeA コネクタ)をご利用いただけますが、動作保証はできませんので、ご了承ください。RGBケーブル及びHDMIケーブルは会場に備え付けられております。

司会者へのお願い

●発表および質疑応答時間

予定時間を超過しないように時間管理をお願いします。

●総括討論

各セッションの最後に総括討論の時間を設けておりますが、利用できる時間はそれぞれの部会によって異なります。この時間の活用方法は司会者に一任しておりますので、臨機応変に対応していただきますようお願いいたします。

●緊急連絡先

発表者、司会者ともに、緊急の連絡をしなければならない場合には、以下をお願いします。

大会実行委員会 E-mail: jaher2019knzw@ml.kanazawa-u.ac.jp

会場へのアクセス

金沢商工会議所および金沢歌劇座へは、JR 金沢駅東口からバスをご利用下さい。
8日(土)と9日(日)では会場がことなります。

○金沢商工会議所へのアクセス

金沢駅兼六園口(東口)よりバス(3、8~10番乗場)にて約10分(南町・尾山神社バス停より徒歩2分)



○金沢歌劇座へのアクセス

金沢駅兼六園口(東口)より北陸鉄道バス「東部車庫」「金沢学院大学」行き(3番乗場)、「城下まち金沢周遊バス」(7番乗場)、「まちバス(土日祝のみ運行)」(JRバス乗場)乗車、本多町にて下車(乗車時間 約20分)



金沢商工会議所（6月8日 自由研究発表I・II、課題研究I・II）

2F

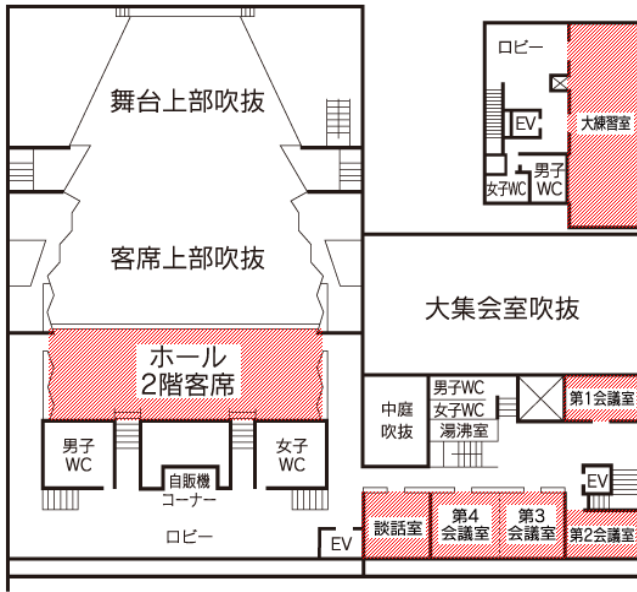


1F

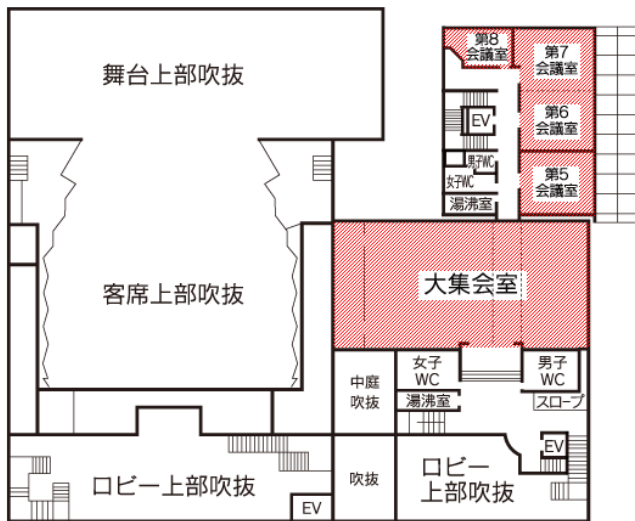


※研修室1は、当日1A・1B・1Cの3つの部屋に分かれています。

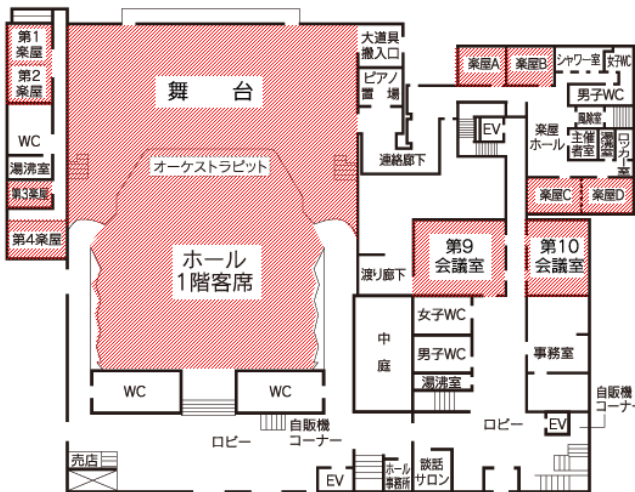
歌劇座 (6月9日 自由研究発表Ⅲ、公開シンポジウム)



3F



2F



1F

会場一覧

6月8日(土) 金沢商工会議所
受付: 8:15~ エントランスロビー

9:15~11:15
自由研究発表 I

I-1 部会	卒業研究・正課外学習	(大会議室)
I-2 部会	学生獲得・大学の国際化	(ホール)
I-3 部会	大学進学・進路選択	(研修室1B)
I-4 部会	専門性開発	(研修室2)
I-5 部会	大学と社会	(研修室1C)
I-6 部会	中国の高等教育	(研修室1A)

12:15~14:15
自由研究発表 II

II-1 部会	大学教育と職業	(大会議室)
II-2 部会	大学政策	(ホール)
II-3 部会	ヨーロッパの大学	(研修室1A)
II-4 部会	大学の歴史と理念	(研修室1B)
II-5 部会	アジアの高等教育・留学生政策	(研修室1C)
II-6 部会	大学の組織・運営	(研修室2)

15:15~17:45

課題研究

課題研究 I	多様な研究アプローチからみた 高等教育研究 2 —学習成果研究を共 通のトピックとして—	(大会議室)
課題研究 II	高等教育と地域社会 2 —新たなモード展開に向かう 現場から—	(ホール)

18:00~20:00
懇親会 (しいのき迎賓館)

6月9日(日) 金沢歌劇座
受付: 9:15~ 2Fロビー

10:00~12:00
自由研究発表 III

III-1 部会	大学の教育 (1)	(第3会議室)
III-2 部会	大学評価と質保証	(第4会議室)
III-3 部会	大学の教員	(第5会議室)
III-4 部会	大学と学術	(第6会議室)
III-5 部会	大学の教育 (2)	(第7会議室)
III-6 部会	学生調査	(第9会議室)
III-7 部会	アメリカの高等教育	(第10会議室)
III-8 部会	大学の財務運営	(大練習室)

13:00~13:30
総会 (大集会室)

13:40~16:20
公開シンポジウム
「地方創生と高等教育」
(大集会室)

I-1 部会 大会議室

卒業研究・正課外学習

司会：濱中 義隆（国立教育政策研究所）

- 9:15~9:35 人文科学系学士課程教育における学習経験と学習成果
—全国卒業生調査の結果から—
○篠田 雅人（宝塚大学）
- 9:35~9:55 日本の教育型大学における卒業研究の教育実態と評価
—東北の大学を中心に—
○黄 梅英（尚絅学院大学）
- 9:55~10:15 正課外活動の教育効果に関する一考察
—インセンティブ・ポイントの取組みを事例に—
○田中久美子（島根大学）
- 10:15~10:35 大学における授業外学習はどのように分類されるのか
—授業外学習を促すための教育実践研究における記述に着目して—
○石井 和也（宇都宮大学）
- 10:35~10:55 大学初年次合宿研修の効果に関する計量的検討
—帝京大学教育学部初等教育学科初等教育コース 2018 年度合宿研修の場合—
○山村 豊（帝京大学） 星田 由哉（星槎大学）
官里 翔大（桜美林大学大学院）
- 10:55~11:15 総括討論
-

I-2 部会 ホール

学生獲得・大学の国際化

司会：米澤 彰純（東北大学）

- 9:15~9:35 私立大学の学生獲得の規定要因
—首都圏近郊の第四世代大学に注目して—
○小池 裕子（開智国際大学）
- 9:35~9:55 Something Common Makes Connecting much more Easier
—手話を用いる留学生のライフストーリーに着目して—
○梅津 静子（筑波大学大学院）
- 9:55~10:15 卒業生から見た日本における英語学位プログラムの評価
—A 大学学士課程プログラムを事例として—
○土居 新治（筑波大学）
- 10:15~10:35 STEM 分野における学部英語プログラムの特徴と課題
○中原 理沙（筑波大学大学院）
- 10:35~11:15 総括討論

I-3部会 研修室1B

大学進学・進路選択

司会：村澤 昌崇 (広島大学)

- 9:15~9:35 大学進学率の男女差と学生の進学先に関する実態の時系列分析
—女子大学進学率上昇は如何なる影響を及ぼしているか—
○有澤 尚志 (文部科学省)
- 9:35~9:55 社会関係の移動履歴・居住地が進学希望地域に及ぼす影響
—東北3県の高校生に着目した比較分析—
○津多 成輔 (兵庫教育大学)
- 9:55~10:15 教職課程履修学生の進路希望に関する一考察
—愛知学院大学の事例を中心に—
○山口 拓史 (愛知学院大学)
- 10:15~10:35 人口減少下の地域社会システムと高等教育
○塚原 修一 (関西国際大学) 濱名 篤 (関西国際大学)
- 10:35~11:15 総括討論
-

I-4部会 研修室2

専門性開発

司会：山本 眞一 (筑波大学・広島大学)

- 9:15~9:35 データライブラリアンに求められる能力
—北米の求人情報分析—
○溝上智恵子 (筑波大学) 浅川 瑞貴 (筑波大学)
呑海 沙織 (筑波大学)
- 9:35~9:55 カナダの高等教育専攻課程
—大学院における管理運営専門職と研究者の養成—
○高野 篤子 (大正大学)
- 9:55~10:15 マネジメント課題としての大学職員養成
○加藤 毅 (筑波大学)
- 10:15~10:35 大学の経営戦略に対する現場の戦略実行力の獲得プロセス
○中島 英博 (名古屋大学)
- 10:35~11:15 総括討論

I-5部会 研修室1C

大学と社会

司会：濱名 篤 (関西国際大学)

- 9:15~9:35 大学間連絡調整団体の基礎的研究
○廣内 大輔 (岐阜大学)
- 9:35~9:55 忘れられた私立大学団体
—戦間期~戦後初期の高等教育と全国私立大学連合会—
○伊藤 彰浩 (名古屋大学)
- 9:55~10:15 戦後日本の学生運動と大学の理論
—組織・制度論的視座の検討を中心に—
○齋藤 崇徳 (大学改革支援・学位授与機構)
- 10:15~10:35 大学教育後援会とその設置現況
○大川 一毅 (岩手大学) 大野 賢一 (鳥取大学)
 瀧田 敏行 (茨城大学)
- 10:35~10:55 母校統合後の同窓会の組織作り
—カナダ・プリンス・エドワード島大学の事例を参考に—
○古畑 翼 (筑波大学大学院)
- 10:55~11:15 総括討論

I-6部会 研修室1A

中国の高等教育

司会：黄 福涛 (広島大学)

- 9:15~9:35 香港における学生募集活動について
—会津大学コンピュータ理工学部の学生募集事例—
○山内 和昭 (会津大学)
- 9:35~9:55 学生を成長させる大学教育
—中国の大学生調査からみえるもの—
○鮑 威 (北京大学)
- 9:55~10:15 アウトカムに基づく中国独立学院での質保証とその効果
—機関別に着目して—
○潘 秋静 (広島大学大学院)
- 10:15~11:15 総括討論

Ⅱ-1 部会 大会議室

大学教育と職業

司会：小方 直幸(東京大学)

- 12:15~12:35 若手職業人による大学教育の職業的レリバンス認識の変遷
—第2派聞き取り調査の分析を通じて—
○二宮 祐(群馬大学)
- 12:35~13:25 グローバル・コンピテンスを育むSTEM教育の三ヵ国比較
—日米中の大卒・院卒者を中心に—
○山田 礼子(同志社大学) ○堺 完(大分大学)
○木村 拓也(九州大学) ○杉谷祐美子(青山学院大学)
荒井 克弘(大学入試センター) 塚原 修一(関西国際大学)
小笠原正明(北海道大学) 森 利枝(大学改革支援・学位授与機構)
山崎 慎一(桜美林大学) 山田 亜紀(筑波大学)
STEVENSON William(同志社大学) 楊 奕(中部大学)
- 13:25~14:15 総括討論
-

Ⅱ-2 部会 ホール

大学政策

司会：大森 不二雄(東北大学)

- 12:15~12:35 高等教育政策の現在
—幻想の国立大学法人化、解体する分担管理、増殖する政策のインブリーディング—
○羽田 貴史(東北大学)
- 12:35~12:55 大学改革の副作用に関する一考察
—ガバナンス構造の変化に着目して—
○山本 眞一(筑波大学・広島大学)
- 12:55~13:45 EBPMにおける分析方法の応用可能性と課題
○松宮 慎治(神戸学院大学) ○村澤 昌崇(広島大学)
○中尾 走(広島大学大学院)
- 13:45~14:15 総括討論

Ⅱ-3 部会 研修室 1A

ヨーロッパの大学

司会：夏目 達也 (名古屋大学)

- 12:15~12:55 Student Engagement in the U.K. and Japan:
Engaging the student voice for quality enhancement and assurance
○Masahiro TANAKA (University of Tsukuba) ○Luke MILLARD (Birmingham City University)
- 12:55~13:15 フランスにおける高等師範学校の拡張過程
○大前 敦巳 (上越教育大学)
- 13:15~13:35 チェコの大学における自然科学系学部のジェンダー的偏向
○石倉 瑞恵 (石川県立大学)
- 13:35~14:15 総括討論

Ⅱ-4 部会 研修室 1B

大学の歴史と理念

司会：塚原 修一 (関西国際大学)

- 12:15~12:35 大学図書館近代化期の大学図書館の管理運営論の特質と現代的展開
○村上 孝弘 (龍谷大学)
- 12:35~12:55 「学生募集広報プランの検討」ワークショップがもたらす自校教育効果
○喜村 仁詞 (高知大学) 小暮 克哉 (岩手大学)
- 12:55~13:45 大学教育の何がアウトソーシングされるのか
○日下田岳史 (大正大学) ○谷村 英洋 (帝京大学)
○小島佐恵子 (玉川大学) 橋本 鉦市 (東京大学)
- 13:45~14:15 総括討論

Ⅱ-5 部会 研修室1C

アジアの高等教育・留学生政策

司会：苑 復傑(放送大学)

- 12:15~12:35 アジア高等教育圏構築に向けた学生交流の枠組み造りの意義
—ASEAN+3 教育大臣会議が合意する2つのガイドラインの今後の課題—
○堀田 泰司(広島大学)
- 12:35~12:55 東アジアにおける「大学」概念の形成と変容
—機能としてのトランスレーションに注目して—
○米澤 彰純(東北大学) 嶋内 佐絵(首都大学東京)
劉 靖(日本学術振興会/東京大学)
- 12:55~13:15 日韓の留学生政策と大学の受入体制
—誘致拡大開始前後を比較して—
○塚田亜弥子(東京大学大学院)
- 13:15~13:35 中国人留学生の海外大学進学先決定に関する研究
—国際的な大学環境の充実と海外における入試広報効果に着目して—
○三好 登(広島大学)
- 13:35~14:15 総括討論
-

Ⅱ-6 部会 研修室2

大学の組織・運営

司会：両角亜希子(東京大学)

- 12:15~12:35 パソコン必携化をめぐる合意形成過程とその特質
—神戸大学の事例を中心に—
○近田 政博(神戸大学)
- 12:35~12:55 大学における戦略的意思決定の実態
—S 大学トップマネジメント層へのインタビュー調査より—
○渡辺 伊織(立教大学)
- 12:55~13:15 大学組織における多層的なリーダーシップ構造
—コロンビア大学を中心とする事例調査から—
○田中 慶(筑波大学)
- 13:15~13:35 大学組織のマトリクス化
—教員組織、教育組織、研究組織・研究所の関係を考える—
○阿曾沼明裕(名古屋大学)
- 13:35~13:55 大学のグループ経営
—国立大学の連結対象法人を例に—
○森 卓也(株式会社 三菱総合研究所)
- 13:55~14:15 総括討論

Ⅲ－1 部会 第3 会議室

大学の教育（1）

司会：稲永 由紀（筑波大学）

- 10:00～10:20 短期大学生調査を用いた5年間の経年分析から見た短期大学の現状
—分野別の考察から—
○山崎 慎一（桜美林大学） 塚 完（大分大学）
宮里 翔大（桜美林大学） 黄 海玉（短期大学基準協会）
- 10:20～11:10 第三段階教育におけるビジネス分野の学修成果とコンピテンシー
○吉本 圭一（九州大学） ○江藤智佐子（久留米大学）
○亀野 淳（北海道大学）
- 11:10～12:00 総括討論
-

Ⅲ－2 部会 第4 会議室

大学評価と質保証

司会：前田 早苗（千葉大学）

- 10:00～10:20 内部質保証の確立：多様な統合によるアプローチ
○江原 昭博（関西学院大学）
- 10:20～10:40 IRが抽出した「共通知」の教学マネジメント分野への適用可能性
○大野 賢一（鳥取大学） 寫田 敏行（茨城大学）
小湊 卓夫（九州大学） 岡部 康成（帯広畜産大学）
藤井 都百（九州大学） 田中 秀典（宮崎大学）
- 10:40～11:00 実践レベルにおける「評価」の教育的意味
—医学部の客観的臨床能力試験（OSCE）のフィールドワークをもとに—
○元濱奈穂子（東京大学大学院）
- 11:00～11:20 日本の大学評価の目的と枠組みの変遷
○齊藤 貴浩（大阪大学）
- 11:20～11:40 大学へのブロックグラント（運営費交付金）の配分方式とその影響
○林 隆之（政策研究大学院大学）
- 11:40～12:00 総括討論

Ⅲ-3部会 第5会議室

大学の教員

司会：加藤 毅 (筑波大学)

- 10:00~10:20 国立大学のアドミッション担当教員の仕事とキャリア
—質問票調査にもとづく経歴、職務、課題の分析—
○丸山 和昭 (名古屋大学) 夏目 達也 (名古屋大学)
齋藤 芳子 (名古屋大学)
- 10:20~10:40 教員調査からみえる学士課程教育の質保証の実態
—ボーダーフリー大学に着目して—
○葛城 浩一 (香川大学)
- 10:40~11:20 変容する大学教授職に関する研究(2)
—教育研究の方針決定に対する影響力の変容を中心として—
○大膳 司 (広島大学) ○黄 福涛 (広島大学)
有本 章 (兵庫大学) 藤村 正司 (広島大学)
浦田 広朗 (桜美林大学) 天野 智水 (琉球大学)
村澤 昌崇 (広島大学) 葛城 浩一 (香川大学)
Kim Yangson (広島大学)
- 11:20~12:00 総括討論

Ⅲ-4部会 第6会議室

大学と学術

司会：阿曾沼明裕 (名古屋大学)

- 10:00~10:20 学生による研究の解釈と内面化された研究規範に関する研究
—何が理系学生を長時間研究に駆り立てるのか—
○久保 京子 (東京大学大学院)
- 10:20~10:40 大学制度と博士研究員
—日本の大学における現状と諸課題—
○赤羽 良一 (群馬工業高等専門学校)
- 10:40~10:30 学問分野別にみた研究資金と論文生産性の関係
○宮錦 三樹 (中央大学)
- 11:00~11:20 オープンアクセス雑誌とハゲタカ雑誌に関する一考察
○船守 美穂 (国立情報学研究所)
- 11:20~11:40 修士論文を課さない日本の修士課程の現状と課題
—「特定課題研究による修了」に関する全国調査の結果から—
○吉川裕美子 (大学改革支援・学位授与機構) 齋藤 崇徳 (大学改革支援・学位授与機構)
越 光男 (非会員：元大学改革支援・学位授与機構)
- 11:40~12:00 総括討論

Ⅲ-5 部会 第7 会議室

大学の教育 (2)

司会：吉田 文 (早稲田大学)

- 10:00~10:20 教養系学科カリキュラムの共通性に関する分析
○栗原 郁太 (津田塾大学)
- 10:20~10:40 現代日本における学士課程カリキュラムの共通性
—プログラムレベル指標としての必修単位数—
○串本 剛 (東北大学)
- 10:40~11:00 今後求められるリベラル教育
—アメリカの最新学士課程教育の事例を中心に—
○長野 公則 (東京大学大学院)
- 11:00~11:20 グローバリゼーションとユニバーサリゼーションの渦中の大学の共通教育の現状と将来
○清水 亮 (神戸学院大学)
- 11:20~12:00 総括討論
-

Ⅲ-6 部会 第9 会議室

学生調査

司会：山田 礼子 (同志社大学)

- 10:00~10:20 学生の学修意欲をいかに高めるか
○劉 文君 (東洋大学)
- 10:20~11:10 学士課程教育の質保証の研究 (1)
—H 大学の学生追跡分析—
○有本 章 (兵庫大学) ○山崎 博敏 (兵庫大学)
○古田 薫 (兵庫大学)
- 11:10~11:50 大学生の学習行動は変わったか
—全国学生調査にみる 10 年間の比較—
○濱中 義隆 (国立教育政策研究所) 金子 元久 (筑波大学)
○小方 直幸 (東京大学) 両角亜希子 (東京大学)
 島 一則 (東北大学) 朴澤 泰男 (国立教育政策研究所)
 王 帥 (東京大学) 谷村 英洋 (帝京大学)
- 11:50~12:00 総括討論

Ⅲ-7 部会 第10 会議室

アメリカの高等教育

司会：森 利枝 (大学改革支援・学位授与機構)

- 10:00~10:20 米国フロリダ州で国際バカロレアはなぜ急速に普及したのか
○江幡 知佳 (筑波大学大学院)
- 10:20~10:40 米国パデュー大学工学群における工学教育研究
○林愛 彩香 (東京工業大学大学院)
- 10:40~11:00 米国の高大接続における「高大統合」の論理
—早期カレッジハイスクール (Early College High School) の展開に着目して—
○高野 雅暉 (筑波大学大学院)
- 11:00~11:20 アメリカにおける学生への経済的支援の効果に関する実証研究の動向
○小林 雅之 (桜美林大学)
- 11:20~11:40 アメリカ研究大学の博士課程における大学院生の研究経験
—全米研究協議会 (NRC) による大学院生調査 2006 年より—
○相原総一郎 (芝浦工業大学)
- 11:40-12:00 総括討論
-

Ⅲ-8 部会 大練習室

大学の財務運営

司会：浦田 広朗 (桜美林大学)

- 10:00~10:50 大学の財務運営の現状・課題・展望
—理事調査から—
○両角亜希子 (東京大学) ○王 帥 (東京大学)
○井芹俊太郎 (法政大学)
- 10:50~11:10 高等教育機関における独自奨学金制度に関する比較的考察
○川村 真理 (東京大学)
- 11:10~12:00 総括討論

多様な研究アプローチからみた高等教育研究 2

—学習成果研究を共通のトピックとして—

<趣旨>

昨年の2018年度科学研究費補助金の審査区分に従来はなかった「高等教育学」関連が登場し、また1997年に高等教育学会が設立されてから20年を超えた。こうした状況の中、「高等教育学」とは何か?を問う時期が来ているのではないかと昨年度思い至った。ただし、いきなり「高等教育学」とは何かを問い始めるのも難しいことは自明であり、そこで昨年度に続き、我々は金子元久会員が言う準専門領域としての高等教育研究というスタート地点からのアプローチを続けたいと思う。金子会員によれば、高等教育研究は、特定の研究対象への関心を中心に組織され、固有の論理・方法の体系を形成し、研究・教育機関において専門職を養成し、学会においてこの両者を組織するという古典的専門領域(Academic Disciplines)ではない。むしろ、具体的な対象に対する関心を共有することを基軸にするとしても、必ずしも理論・方法を共有せず、あるいはそこだけに帰属する構成員から成り立っているのでもない、準専門領域であり、開かれた研究領域であることを宿命づけられているものとされる。実際に、高等教育研究の領域には、多様な研究アプローチから高等教育を行う研究者、そして実践的観点からアプローチを行う実務家など、多様なアプローチそして集団に開かれているのである。

そこで、こうした高等教育研究を多様な研究アプローチや多様な立場から高等教育研究に関わる人々を含めて課題研究におけるディスカッションを通じて、高等教育研究の今後のあり方について引き続き議論していきたい。具体的には、高等教育研究との比較において一定の研究アプローチが確立されていると考えられる社会学、心理学、教育学、分野横断的に用いられる歴史・比較研究アプローチ、そして実践的観点からの課題解決型の研究等から見た高等教育研究の現状・課題を昨年度に引き続き検討する予定である。昨年度については、濱中淳子会員(東京大学「教育社会学の経験からみた高等教育研究のポジショニング」)、井上義和会員(帝京大学「歴史的アプローチからみた高等教育研究」)、加藤毅会員(筑波大学「社会工学的アプローチと高等教育研究」という題目でご発表をいただいた。また、コメンテーターは小方直幸会員(東京大学)にお願いした。今年度は、改めてこれらの議論を整理しつつ、教育学(教育方法学)の立場から松下佳代氏(京都大学)、山田礼子会員には比較アプローチの観点から、濱中義隆会員には政策立案に近い、政策研究といった観点からお話をいただく。また、昨年度からの主要な変更点として、今年度は学習成果研究という形で、3つのアプローチの対象を同定する形をとった。このことは、3つのアプローチに基づいて語られる対象が、統一されている方が、より議論を行いやすいだけでなく、高等教育研究のホットイシューの1つである学習成果研究に着目することで、より高等教育研究の今後のあり方を検討しやすくなるものと判断したためである。

当日は、2年にわたる多様な研究アプローチの交差による議論を通じて、高等教育研究はどのような強みや課題を持ち、どのような発展可能性を有しているのか、「高等教育学」のあり方も遠くに見据えつつ、高等教育研究の今後のあり方について、多くの参加者とともに考えていきたい。

司会：島 一則(東北大学)

<報告者>

1. 松下 佳代(京都大学) 教育方法学と高等教育研究—学習成果研究を題材にして—
2. 山田 礼子(同志社大学) 比較アプローチから見る高等教育研究：学習成果を題材に
3. 濱中 義隆(国立教育政策研究所)

政策志向の高等教育研究—その実践と課題—

<コメンテーター> 金子 元久(筑波大学)

高等教育と地域社会(Ⅱ) —新たなモード展開に向かう現場から—

<趣旨>

本課題研究『高等教育と地域社会』では、昨年度はサブテーマ「相関的な政策と研究との間」を設定し、今日注目される高等教育と地域社会をめぐる政策・研究・現場の関係性について、これまでの展開過程を振り返った。その結果、日本におけるこの関係性の展開について、3つの段階が確認された。第一段階では絶対的な知識基盤としての大学があり、地域が不均等な教育機会を如何に享受しているのかに研究の関心があった。そこでは、資源を持つ者と持たざる者との一方向的な関係が前提とされていた。第二の段階では関係の双方向性が注目され、産業振興とともに医療・福祉・文化等を含めた専門現場領域に焦点があてられることになった。専門知識供給側の大学が広範囲の領域で地域と交流し、地域への貢献コンセプトが強調された。そして今日、第三の段階として、地域と大学との関係性がより対等なものとなり、むしろ地域の資源を利用した教育活動の充実向上にも注目されるようになってきた。

しかしながら、高等教育と地域社会の関係をめぐる将来像を提示していく機能をもつ文教政策が、これまで他の政策領域に追随し、現場が政策に従属するという関係になっていた。換言すれば、高等教育領域における地域社会との連携強化のイニシアティブは、高等教育領域の外にあった。前年度課題研究の後、中教審(2018.11)「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」が出され、大学の地域配置、地域に関わる大学のガバナンス(典型的には地域連携プラットフォーム)、地域と連携した教育のありようなど、本研究課題に関わる事柄も多く盛り込まれた。しかし全体としては、「多様性と柔軟性」が基調であり、そのアプローチは各機関あるいは地域に一任されているように読める。

だとすれば、今、高等教育と地域社会との関係に対する高等教育研究固有のアプローチのひとつは、他分野が関心を寄せる、高等教育との連携が地域にもたらす産出などのインパクトだけではなく、連携・交流が高等教育にもたらす変容(融解を含めて)を、現場の文脈に即しながら学術的に解明することにある。他の政策領域のモデルやアメリカ等海外のキーワードの借用にとどまってきた高等教育研究のスタンスが、改めて問われることになる。

そこで、2019年度は「新たなモード展開に向う現場から」をサブテーマとし、高等教育の連携・交流の現場に焦点をあて、地域社会との関わりでの高等教育の変容を各方面から論じ、高等教育研究の今日的な研究課題とアプローチを議論することにした。今回は、地域との連携・交流において注目される大学の現場関係者、さまざまな大学を比較観察しているメディア、加えて実態を研究する研究者、それぞれの立場から話題を提供いただく。これらを踏まえて、高等教育研究がどこまで現場に迫り得るのか、研究の現段階とその可能性について、学術研究の観点から議論してみたい。

司会：稲永 由紀(筑波大学)

<報告者>

1. 住吉 廣行(松本大学) 大学の使命と地域連携教育
2. 可部繁三郎(日本経済新聞社)
「高等教育と地域社会」をめぐるキャンパスの外からの視点
3. 吉本 圭一(九州大学) 地域連携・交流に関わる大学と教員
—職業統合的学習に注目して—

<コメンテーター> 羽田 貴史(東北大学)

公開シンポジウム 6月9日(日) 13:45-16:45

金沢歌劇座大集会室

テーマ：地方創生と高等教育

<趣旨>

少子化が進む中、高等教育においても大胆な制度改革が求められている。中でも地方大学は国公立に関わらず当該地域における存在意義が問われている。政府も「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(2015年度)において、政策パッケージとして「(2) 地方への新しいひとの流れをつくる(ウ) 地方大学等の活性化◎知の拠点としての地方大学強化プラン、◎地元学生定着促進プラン、◎地域人材育成プラン」を掲げ、「まち・ひと・しごと創生総合戦略2017 改訂版」、「まち・ひと・しごと創生基本方針2018」の中でも、「地方創生に資する大学改革を推進し、地域の中核的な産業の振興やその専門人材育成等を積極的に行う地方の特色ある創生のための地方大学の振興(キラリと光る地方大学づくり)」を謳っている。

このような状況の中、地方中核都市であり、19もの国公立の高等教育機関がある石川県金沢市で高等教育学会が開催されるのを好機と捉え、上記、「地方創生」をテーマとし、政策誘導の効果、高等教育機関の自助努力の効果及び限界などをトピックとした公開シンポジウムの開催を検討する。

なお、石川県には、大学・行政・企業が連携して設立された(公)大学コンソーシアム石川があり、その連携活動は国、県、市、企業等からの支援・補助を受けて一定の成果を生み出していることも本企画案構想の要素の一つである。

基調講演：藻谷 浩介 ((株)日本総合研究所 主席研究員)

パネリスト：

泉谷満寿裕 (珠洲市長)

池田 幸應 (金沢星稜大学教授)

コーディネーター：

羽田 貴史 (東北大学)